資料５

事前確認シートまとめ

事前確認シートに係る分析結果

1. 主要な課題カテゴリー

1. 認知度の問題
    - 学校運営協議会の認知度が低い
    - 地域学校協働活動推進員の認知度が低い
    - 保護者、地域、教職員それぞれで温度差がある
    - コミュニティスクールという仕組み自体の浸透不足
2. 人材確保の課題
    - 人材募集に苦労している
    - 活動可能な人材の限定
    - 新規開拓の困難さ
    - 日常的にサポートに関われる層の不足
3. 運営上の課題
    - 学校のニーズ把握の遅れ
    - 人材管理の分散
    - 各学年でニーズが異なる
    - 活動機会の不足

2. 提案されている対応策の分類

広報・周知施策

- 学校だより・ホームページでの周知
- 町のホームページ、LINE での情報発信
- 地域掲示板への活動内容掲示
- 横断幕や看板の設置
- 入学説明会、入学式での説明

組織的対応

- 5 校協働での情報共有
- 統一書式・名簿での一元管理
- 地域学校協働活動推進本部の設置
- 学校・地域・行政の横断的連携

活動内容の改善

- わかりやすい活動名への変更
- 具体的な活動事例の紹介
- 学校主体のイベント実施
- 互いの信頼関係構築

3. 特徴的なキーワード出現頻度（上位）

1. 学校運営協議会
2. 地域学校協働活動推進員
3. 認知度
4. 人材
5. 地域
6. 保護者
7. ボランティア
8. 連携
9. 周知
10. 募集

4. 主要な示唆

1. 認知度向上のアプローチ
    - 単なる周知だけでなく、活動の実質的な価値を示すことが重要
    - 学校を中心とした取り組みが効果的
    - 5 校協働での取り組みが効果的な可能性
2. 人材確保の方向性
    - 既存の協力者との関係維持が重要
    - 負担感の軽減が必要
    - 活動の意義や魅力の明確化が必要
3. システム改善の必要性
    - 情報共有の仕組み作り
    - 人材管理の一元化
    - 学校ニーズの早期把握と共有
4. 根本的な課題
    - コミュニティの活性化が基盤
    - 地域との連携強化
    - 活動の意義の再定義

学校運営協議会長等情報交換会　事前確認シート　ご意見

認知度を上げるにはどうしたら良いか。

現状・課題：　学校運営協議会、地域学校協働活動推進員の認知が広がっていないため、人材募集に苦労している。

対応方法：　まずは、現状利用できる手段を理解し、その方法内での課題と対応を検討する。すでに利用しているが効果がない場合について具体的な使用例を確認し利用価値があるか検討。適当な手段がない場合は、下記の利用を検討していただきたい。

例：二宮町ホームページでの活動や募集掲載・町内イベント案内時の宣伝とリンク掲載、学校内での CS のわかりやすい活動報告、わかりやすい活動名への変更もしくは追加名、社会などの授業での紹介、地域の方プレゼンの社会授業など

認知度を上げるにはどうしたら良いか。

現状：　双方の認知度がまだ高くないことは事実である。

学校運営協議会

・学校だよりやホームページ等で学校運営協議会の紹介や活動内容を周知
・PTA 校外指導委員会主催の地区懇談会において、会長から学校運営協議会の説明や本校の取組内容について紹介
・学びふれあい部会や環境整備部会の活動として学習支援を行っている。
・菜の花の栽培、学年園の整備、校外学習の付き添い
・今後、４年生の地域学習、にのっこウォークラリーでの支援が予定されている。

地域学校協働活動推進員

・放課後子ども教室の運営や学校運営協議会の学びふれあい部会の中で活動をしていただいている。

課題：　活動が広がっていけばしぜんと認知度も上がっていくと思われる。しかし、現在のところ、上記以外に認知度を上げる策を講じていない。

対応方法：　広報活動

運営協議会や推進委員の活動のさらなる広がり

認知度を上げるにはどうしたら良いか。

現状：　在校生・保護者・地域・教職員、それぞれに認知度は低く、温度差もあることを先にお伝えします。

　その中で、地域人材に限って言えば、「学校の手伝い」「授業に協力」することが求められることがあるという認識はあるものの、「コミュニティスクール」に積極的に関わりたいという意識は薄い。関心を持つ優先順位が他の地域活動・趣味的活動などより低い。単発的なサポートが主体。日常的にサポートに関われる層がそもそも少ない。

課題：　関わりたいと思えるサポートの機会が少ない。サポーターになることへの負担感を軽減しようとすることで、結果集まらないこともある。コミュニティスクールへの無関心。学校への敷居の高さ。

　先生以外のサポーターが子どもに関わることへの抵抗感。先生方がそもそも必要としているのかどうか。コミュニティスクールを活性化させるための仕組みが学校・地域に構築されているか。あらゆる層に、とにかく認知されていない。

対応方法：　域学校協働活動推進委員の役割の明確化と、地域他への周知。コミュニティスクールの定期的な PR。実際にあったサポート例を紹介する機会を定期的にもつ。地域とともにある学校のイメージ共有(双方にその意識はあるか？)。ボランティアではない「協働」は互いが同じ立場・目的をもって行われることであり、そのイメージを共有するためには相互理解と熟議が必須。子どもや学校に関わることで、生きがいを感じられるまでになるには、つながりを切らさず、その方の得意な分野で活躍できる場を定期的に創出する。学校・地域・行政が横断的な連携を持ち、人材を共有することで、幅広く募集でき、活躍の場も増える。とにかく口コミ。近隣大学との連携。中高生との連携。関わる人を増やすとともに、必要な研修の実施やマニュアル作りでサポーターの当事者意識をあげ、層を厚くすることで、互いの信頼感を高める。地域学校協働活動推進本部を 5 校協働で設置し、具体的な施策の要とし総合力を高める。「関わりたくなる学校」を実践している先進校に学ぶ。

認知度を上げるにはどうしたら良いか。

現状：　保護者に向けたボランティア募集の案内に回答してくださった方々、以前から協力していただいている地域の方々を大切にしているが、いつでも協力可能であるとは限らず、「新規開拓」の必要性を感じるものの、むやみに何の面識もない人物へのアプローチは不安を感じる。

課題：　学校からのニーズを早めに明確にする必要があるが、毎年度、時期がある程度たってからでないと推進員さんが情報を把握できない。特定の人物情報でなくても、人材を必要とする目的や分野を蓄積していく必要がある。

対応方法：　学校のニーズに基づいて推進員さんが人材のコーディネートをしやすくするため、「教員以外の人材が授業に関わることで、子どもたちにとってよりよい学びになる可能性がある」アイディアを、学校側で常にストックしておく。その情報を推進員さんと常に共有することにより、余裕をもって人材探しにあたることができる。

　しかし、学校によっては学区がそれほど広くなく、人材探しに苦慮するところもあると考えられる。できれば、以前、教育委員会で集約していただいていたように、5 校で情報を共有できると効率的である。しかし、人材によっては、「近所だから」「わが子がお世話になったから」「あまり手広く活動できない（したくない）」という考えもあり得るので、共有する際には注意が必要である。

認知度を上げるにはどうしたら良いか。

現状：　学校運営協議会の認知度が低いことと、地域学校協働活動推進員の人材募集で苦労していることは別物だと思います。困っている「人材募集」について対応方法等を検討できればと思います。

課題：　各学校で人材管理しており、また、各学年で実施したい教育活動のニーズと異なる。

対応方法：　各学校で人材管理するのではなく、統一書式・名簿で一元管理する。

　人材募集の際は全学校で同時に実施し、地域学校協働活動推進員の活動内容と併せて広く周知する。

認知度を上げるにはどうしたら良いか、その方法をご記載ください。

現状：　コミュニティ・スクールという仕組み自体、地域の方々には浸透していないと思う。実際、支援を引き受けていただけても、学校からの正式依頼がないと躊躇される場合もある。

　校外の人が教育活動に関わっていることは、学校ＨＰや学校だよりで発信されているので知る機会があると思うが、どういう経緯でそれが実現しているかには思い至らないと思う。そもそも身近に小中学生がいなければ、学校と関わる、学校に行くという発想は持てないのではないか。

　保護者に対しては、地域学校協働活動への協力を呼びかけるチラシを配付してボランティア募集を行ったが、応募はまだまだ少ない。

課題：　地道なＰＲ活動
　　人材バンクの充実

対応方法：

・学校は保護者に対して入学説明会、入学式等で、コミュニティ・スクールについて触れ、理解を深めるとともに協力を求める。
・町は他団体、ボランティアグループの会合の席でコミュニティ・スクールについて周知し、学校に目を向けてもらえるように働きかける。
・町のＨＰ、LINE でボランティア人材の情報共有等を発信して、より幅広い人材確保を図る。
・自治会（地域）にボランティア募集、登録用紙を配付するなど、 広く募集の周知を行う。
・地域掲示板に活動内容等の写真やボランティア募集を掲示する。
・「コミュニティ・スクール」や「ボランティア募集」の横断幕や看板を設置する。
・関わってくれた人が活動後に「またやってみたい」 という気持ちをもってくれ、他の人も誘おうと思ってくれるよう、感謝の思いをしっかり伝え関係を大事にすることで、口コミで地域の関心も広がっていくかも。

認知度を上げるにはどうしたら良いか。

現状：　意図的に、職員会議や学校だより、学校 HP 等で「学校運営協議会」「地域学校協働活動推進員」について扱っている。地域と教職員を中心に据えて学校運営協議会の活動を進めてきているので、教職員の中にはかなり浸透している。

課題：　保護者へ周知はしているが、認知度は低いと思われる。

対応方法：　特に「地域学校協働活動推進員」という名称については、覚えやすく慣れ親しみやすい通称を考案すると良いかもしれない。

認知度を上げるにはどうしたら良いか。

現状：① 学校運営協議会の認知度が低い。
② 地域学校協働活動推進員の認知度も低い。

課題：① 認知度が低い中で、学校運営協議会または CS（コミュニティースクール）と両方を使用するので、この 2 つは別物だと思っている人がいる。また、余計に分からなくなる。
②「先生ですか？」とよく聞かれる。

対応方法：① 各校の学校運営協議会が行っていることを、分かりやすく・簡潔に表現する。
② 3 月のあとち祭りで昨年、綱引きをした。狙いは「学校運営協議会を知ってもらう」だったが 1 校だけでは、ただの綱引き大会になってしまう。今年度のあとち祭りで、5 校協働でやりませんか？（5 校でアピールするほうが伝わると思います。）
③ 学校運営協議会・地域学校協働活動推進員について、5 校が同じ言葉で説明する。その内容を決めたい。

認知度を上げるにはどうしたら良いか。

現状：　5校で様々であると思います。今年度、二宮西中は地域学校協働活動として、「祭り＠西中」を開催する予定ですが、推進委員の認知はほぼされていないと思います。

課題：　二宮西中は、地域学校協働活動として何に取り組むのかを模索している最中です。推進委員さんが活躍することが軌道に乗り出したら、認知度は上がっていくのではないでしょうか。
　推進委員をすることの魅力やメリットは、どのようなものなのかが解かりません。一般の方には、まず伝わらないと思います。

対応方法：　様々な広報の機会で紹介することも効果があるかと思いますが、私にも自信がありません。
　地域の活動に興味関心のある方をどのように増やしていくかの先に担い手が見えてくると思います。したがって、地域のコミュニティ活性化に向けて再出発すべきかなと思います。町でも少子高齢化が進む中、地区のお祭りの規模も縮小し、プールの数が減り、町民体育祭や継走大会などの事業がなくなり、併せてコロナ禍の影響で町にコミュニティと元気がなくなっているのが根本的な原因なのではないでしょうか。昔のように、「公共のため」に行動するというより、「自分のため」かどうかで行動する人が多くなっていると思います。

認知度を上げるにはどうしたら良いか。

現状：　地域学校協働活動推進員の認知が広がっていないため人材募集に苦労しているのではなく、何をするにも集客に苦労している
　認知度を上げても集客は変わらない

課題：　集客

対応方法：　集客率が上がれば自ずと認知度も上がる。
　町の各団体、各委員からの募集で子どもたち（大人も含め）は集まりません。
　学校主体とした募集にすることで子どもたちの集まる可能性が高まります。
　学校の１つのイベントとし主催者が学校、名目上の主催者でも良い、準備・サポートは全て団体側。
　成功した際には次回からは主催者を学校⇒弾帯に変更。
　また以前から伝えておりますが、募集チラシなど学校から配る場合においても先生から配布物についての説明をしてもらうだけでも集まり方は変わると思います。
配布するのが仕事ではなく伝えることが仕事です。